

き ぼ う

青少年育成広報

第32号

発行人

青少年育成那珂市民会議

会長 関 守



那珂市総合センターらぼーる

「家庭の日」図画作品展示会（令和2年12月）

私の大切な五台小学校

ばら野学園那珂市立五台小学校六年 三村 祐未
私は、六年間五台小学校で学んできました。五台小学校では、みんなが明るく、元気に生活しています。友達と一緒に楽しめる行事もあって、五台小学校は、とてもいい学校だと思っています。

私たち六年生は、もう少して卒業ですが、在校生のみなさんには、これからも一人一人が目標をもって、その目標に向かって努力していつてほしいです。そして、さらに五台小学校をよくしてってください。
私も、中学校へ進学しても、自分の目標が達成できるように、一歩ずつ進んで成長していきたいです。

短歌

わかすぎ学園那珂市立第四中学校

夏期色の 咲き乱れるは 金の花

徒妹は言う 綺麗だねと

八年 宮田亜李咲

親友と 再び会った 喜びを

心に刻んだ 夏の思い出

八年 山崎 未蘭

鍵盤と 語り合った 三か月

うれし涙の 伴奏者賞

八年 会沢 瑠莉

夕景色 凜とした中 公園で

面白可笑し 友と遊んで

八年 中庭 真緒

玄関を 開けた途端に おかえりと

抱きしめてきた 小さな天使

八年 片岡真悠花

青少年健全育成のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。



茨城県青少年育成協会は、明るく楽しい家庭づくり県民運動の一環として推進している「家庭の日」を普及させるため、絵画・ポスター・コンクールを実施しています。青少年育成那珂市市民会議は、この趣旨をさらに浸透させるため、コンクールに作文の部を加えると共に、毎年、作品展示・作文発表会・表彰式典を実施しています。本年度は、新型コロナウイルスの影響により残念ながら、発表会並びに表彰式典は中止になりましたが、図画作品展示会は、新型コロナウイルス感染防止を徹底させながら実施しました。市内の小中学校から図画102点、作文147点の応募がありました。紙面では、金賞を受賞した作品のみ紹介させていただきます。

「家庭の日」図画・作文発表会 並びに表彰式典

【中止】

小学校低学年の部

じまんのお父さん

ばら野学園那珂市立荻谷西小学校 二年

金成 柊斗

ぼくのお父さんは、とてもやさしいです。いろいろなところに行ってくれたり、ぼくができないことを教えてくれたり、いっしょにれんしゅうしてくれたりします。だから、できないことがあってもお父さんがいてくれるので心づよいです。

お父さんのしごとはエレベーターを作ることです。エレベーターがあんぜんにうごくように、きばんというものを作っているそうです。ぼくもエレベーターにのることがあるけれど、あんなものが作れるなんてお父さんはすごいなあと思うし、ぼくもほこらしい気も

ちになります。

ぼくは、よくお母さんにしかられます。ぼくがお母さんにしかられてないとき、お父さんはいいつも、

「だいじょうぶだよ。」

と言っただきしめてくれます。だから、ぼくもすぐにお母さんに、

「さつきはごめんなさい。」

と言えてなかなかおりができます。お母さんもぎゅつとだきしめてくれます。

お父さんは、そうやっていつもかぞくがなかよくいられるようにしてくれまます。

ぼくも、お母さんも、お父さんが大好きです。大きくなったらぼくもお父さんみたいなお父さんになりたいです。



小学校中学年の部

まねていきたい強さやさしさ

緑桜学園那珂市立芳野小学校 三年

高畠 心玖

「もーもし。」

おじいちゃんの声は、おだやかでやさしいです。わたしは、この声を聞くと安心します。

おじいちゃんとおばあちゃんは、となりの町に住んでいて、わたしが行くと、え顔でむかえてくれます。「心玖ちゃんが来ると、じいちゃん元気になるんだよ。」

と、おばあちゃんはいつも言ってくれます。

おじいちゃんは、はいのびよう気でさんそをすっています。おばあちゃんは、たくさんのおびよう気にかかって、体があまり動きません。助け合って生活していて、できることは何でも自分でやる場所がすごいです。

わたしは、おばあちゃんにお茶の入れ方を教えてもらいました。

だから、遊びに行くとなたしがお茶を入れます。

「いつもありがとね。お客さんなのに、ごめんね。」

「心玖ちゃんが入れたお茶は、おいしいよ。」

そうやってほめてくれるので、わたしはいつもがんばれます。

おじいちゃんは、せんとく物のたたみ方を教えてくれました。お話しながらたたむのが楽しくて、お手つだいが好きになりました。

さい近、心ばいなことがありました。おじいちゃんが手じゅつをしたのです。手じゅつがせいこうして、おじいちゃんが帰ってきたとき、わたしは、すぐに会いにきました。

いつものように、え顔でむかえてくれたおじいちゃんとおばあちゃんは、もとの生活にもどれて、本当にうれしそうです。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、びょう気とつき合いながら、二人で助け合っている、強くてやさしい家族です。こまったことからにげない強さと、人を思

いやるやさしさがあります。わたしをしんじて、何でもやらせてくれる広い心があります。そういうところをまねしていきたいと思っています。おじいちゃん、おばあちゃん、大事にするね。



小学校高学年の部

家族にしかられない作戦

わかすぎ学園那珂市立菅谷東小学校 五年

くまた 熊田 ここね

新型コロナウイルスのせいで、わたしと家族の生活は一変した。学校は休校で、楽しみにしていた宿はく学習も中止になってしまった。さらに、外出までひかえなければならなくなり、家で過ごす時間がふえた。

家では、在宅きんむになったお父さんとお母さんが仕事をしている。休けい中にわたしを見ると、「宿題終わったの？早くやりなさい。」

何かにつけて早くするようにせかされる。わたしだってたまたま休けいでゴロゴロしているだけなのに。こんな事が重なると、わたしは家族に対してイライラしてしまう。

そこでわたしは、家族にしかられない作戦をねることにした。ま

ずお母さんに、どうしてしかるのか聞いてみた。お母さんがしかる理由は「ここねが学校でこまらないように」だそう。そうか、わたしのために言ってくれていることだったんだ。しかられる理由が分かった。やるべきことを後回しにしないってことは、自分でも分かっている。分かっていることを言われるのも、イライラの一つになる。そして、作戦を執行した。お父さん、とお母さんに、「しかるときは、やさしい口調で言うって。」

と、お願いした。すると、「そうだよ、分かったよ、ごめんね。」

と笑い返してくれた。わたしも、これからは、す直に受け止めようと決心した。

ステイホームで家族と過ごす時間が長くなった。イライラすることもあるけれど、お父さんとお母さんと一緒にいるだけで、とても安心する。世界中では、コロナウイルスで亡くなっている人がたくさんいる。悲しみにひたっている

人がたくさんいる。家族が元気であるだけで幸せなんだということが分かった。だからこそ、これからは、家族がいることに感謝をしながら過ごしたい。



中学生の部

理緒と私

青遙学園那珂市立第二中学校 八年

鴨志田 かもしだ 結芽 ゆめ

「結芽ちゃんはいいいなあ。」

バレエ部の試合のお迎えの時、友人は私にこう言った。私を迎えに来たのは、十一歳離れた姉だ。私には姉が二人いて、すぐ上の姉は横浜で看護師をしている。迎えに来た姉は、一番上で、今年の始めに結婚し、今は一緒に住んでいる。だから私には兄もいるのだ。そんな私は、たしかに恵まれている。このように、父や母が迎えに来られなくても祖父や姉や兄、私のために誰かが動いてくれる。私も家族に大事にされていることをよくわかっている。特に、この姉には小さな頃からかわいがってもらっている。姉の理緒は、まるで二人目の母のようだ。一緒にお風呂に入ったり、お弁当を作ってくれたり、テスト勉強に付き合ってくれ

たり、理緒がいると私はいつも安心していられる。

平成23年3月11日、東日本大震災。当時私は五歳の幼稚園児だった。家で理緒と二人、テレビを観ていた時、ゴォと大きい音と共に部屋が激しく揺れだした。わけがわからない恐ろしさの中、理緒は私を抱きしめて、コタツの中に入った。暗かった、恐かった。

「結芽ちゃん、大丈夫?」

私の耳に理緒の唇が当たっている。その当時のことはもうほとんど忘れてしまったが、恐怖と、理緒に抱きしめられている感覚は今も思い出すことができる。

理緒は、専門学校を卒業し、歯科衛生士になった。水戸の歯科医院に就職し、家から通っている。義兄は警察官で、結婚した後、私の家に一緒に住んでいる。警官というのは、なぜか怖いイメージがあるが、義兄はユーモアあふれるとても楽しい人で、今の私は警官に少し親しみを感じるようになった。そんな夫婦から、先日知らされたことがある。

「結芽ちゃん、あのね。理緒のお腹の中に、今、赤ちゃんがいるんだ。」私は驚いた。嬉しいとか悲しいとか、そういう感情はどこかへ行ってしまった。

「うん。」

私はどう答えていいか分からずに、ただうなずいただけだった。

私はとても後悔した。なぜ、おめでとうと言ってあげられなかったのだろう。なぜ、一緒に喜んであげなかったんだろう。この家に赤ちゃんがやってくる。考えただけでワクワクすることなのに、私はどうしてしまったんだろう。

警官の義兄は三日に一度、警察署に泊りになる。だから、三日に一度、私は理緒と一緒に寝ている。子どもが生まれたら、きっとそれもなくなくなるだろう。八年生の自分が、まるで震災の時の幼稚園児みたいに感じられた。あの時、理緒は私を必死で守ってくれていたんだ。そう思うとスーッと涙がこぼれた。今度は、生まれてくる赤ちゃんのために、役に立つ私になろうと思った。



「親が変われば、子どもも変わる」運動 那珂市推進大会【中止】

この大会は、時代を担う青少年が、心身共に健康で人間性豊かに成長することを願い、幼・小・中・高、各世代の子をもつ保護者による子育て体験発表と、子育てに関する講演を主な内容として、毎年開催しています。本年度は、緑桜学園（三中学区）の小中学校・茨城県立那珂高等学校の保護者代表による体験発表を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により残念ながら中止になりました。発表を予定していました「子育て体験文」を掲載しますので、皆様の子育てや、より明るい家庭づくりのための参考にしていただければ幸いです。

とやねんをうごけい

緑桜学園那珂市立芳野小学校 保護者

寺門 愛

私の家族は、父と母、長男小学五年生、次男小学一年生の五人家族です。隣に姉夫婦が住んでいます。

長男が少しずつ反抗期にはいり、次男は長男を真似したり、お調子にのってみたり、二人でケンカをしたり・・・と日々やんちゃばかり。私も「もう!」「やめなさい!」など否定的な言葉を言ってしまったたり、怒ってしまったりする毎日です。そして子どもたちは私に怒られると、姉夫婦や祖父母のところへ逃げてしまいます。親だって人間です・・・仕事に子育てに、日々頑張っているも、疲れてしまったらイライラしたりして余裕がないときもあります。長男はだんだん対等になり、口ごたえもするし、自分はこうだ!という

自己主張も増えてきました。次男はとにかくゴーイングマイウェイ。自分が思ったからこう!と貫くタイプ。そして、いっちゃまえないことも言ってきます。自分にゆとりがあるときは、笑ってあげられたり、その思いを受けとめてあげたりすることもできますが、仕事で疲れていたり、体調が悪かったり、イライラしてしまったりするときは、子どもに対して大人げないことを言ってしまうこともあります。そんなとき母に言われた言葉があります。「怒ったりイライラしたりするときは、6秒待つて自分の感情に向き合いなさい。」と。6秒待つて聞くと短いですが、怒っているとき、なかなかその場で6秒間自分の感情に向き合うことって難しいですよ。でも自分が変われば、子どもとの関りももっと良くなるのかな、無駄な怒りもなくなるかなと思います。余裕がないときやイライラしたときは、6秒数えて自分の感情をおさえて冷静になってから、子どもたちと向き合うようにしています。そして、力が入りすぎているときは「前向きな言葉に置きかえて話すと伝わるよ。」と姉から声をかけ

てもらい、子どもたちに対して「～をするともっと良くなるよ。」など子どもの気持ちや意思を尊重しながら、前向きな言葉をかけるようにしています。

「親が変われば、子どもも変わる」とよく聞きますよね。親が変わるのも難しいことですが、できることから少しずつ。少しずつできることを始めていけば、子どもとの関り方も良い方へ変わっていくと思います。

これからも子どもたちと楽しく! 困ったときは、家族や友達、まわりの人に相談したり話を聞いてもらったりと、自分の考えや悩みを素直に話したり、助けてもらったりしながら、子育てを楽しんでいきたいと思っています。今年度は新型コロナウイルスにより、今までとは違う学校生活、新しい生活様式となりました。環境が大きく変わり、子どもたちの気持ちにも変化があったりと、色々と考えさせられる機会となりました。今後新型コロナウイルスがいつまで続くかわかりませんが、子どもたちの気持ちに寄り添い、これからも家族全員であたりまえな日々を楽しく過ごしていきたいと思っています。

親が変わっても、子どもは変わらない。だが、子どもの未来は変える事ができるかもしれない。

匿名希望 保護者

はじめまして。今日は私の宝物と、その宝物について日々考えている事を、少しお話ししたいと思います。このような発表の機会をいただき、心より感謝しております。

私の宝物は、娘です。一人っ子の、とても可愛い、ちよつと(?) 変わった娘です。

娘は赤ちゃんの頃から敏感で、いわゆる『育てにくい子』であったと思います。ほんの少しの変化や刺激に過敏に反応し、私は常に細心の注意をはらって娘に應對していました。私の世界の中心は娘でした。苦しかった事は何度もあります。でも、時折見せる娘の笑顔は、何物にも代えがたいものでした。その笑顔は、『育てにくい子』として生まれてしまった娘が生きやすいように、神様が与えてくれたものだったのかもしれない。

『育てにくい子』の理由は、『発達障害』でした。今は『神経発達障害』

などと言うようですが、ここでは言い慣れた『発達障害』を使わせていただきます。

発達障害にもいろいろありますが、娘は知的には概ね問題はなく、一見普通の女の子です。ですが、得意分野と苦手分野の凸凹がとても大きく、特に対人関係がとても苦手です。こだわりが強く、いつも同じである事を好みます。感覚が、とても敏感だったり鈍感だったりします。いわゆる『ふつう』と異なる反応をする事もあります。これらが赤ちゃんの頃の育てにくさにつながっていたのでしょうか。

そして、発達障害は『特性』であり、『治る病気』ではありません。親が変われば子どもも変わる? いいえ、変わらないのです。

子どもは変わりません。変えられるのは子どもの未来です。

近視の子どもに對して、いくら親が指導しても、近視は変わりません。けれども近視の子どもに眼鏡を与えれば、いろいろなものが見えるようになります。親ができるのはその子の周辺環境を整え、可能性を広げる事であり、その子自身を変化させるものではないと思います。そして、その子が求めて

いるものを見極める事も、親の仕事であると思います。

娘にとって大切なのは『環境調整』

です。常に同じ安定した自分の世界で生きる事が好きな娘にとって、世界は刺激が強すぎます。急に強い刺激が入ると、自分の殻に閉じこもりたくなってしまう。これはある程度は理解してもらえと思いますが、娘にとっては、ほんのちよつとした事が、強すぎる刺激になり得ます。それらを把握し、子どもが好む環境で、リラックスした状態で行動できるように調整を行い、娘が娘らしくパフォーマンズできるよう整える事が、母としての私の仕事だと思っています。

不思議なもので、苦手なものでも一度うまくいったものは、次も取り組む事ができるように思います。ですが、何か不安が強い状況では、いつもできている事ができない時もあります。ストレス下でイライラしているとうまくいかない大人と同じですね。特に、娘は「初めての事」が苦手で、毎度初回時には難色を示します。初回は慎重に行つて、成功体験を増やして、経験値を上げて視野を広げて、将来の可能性を広げていく。骨は折れますが、こうしていく

しかありません。

もちろん、成功もあれば、失敗もあります。

一番かわいい成功例は「替え歌」です。幼児期の娘は替え歌が嫌いでした。童謡の歌詞を少し間違えただけでも怒り、替え歌などもつてのほかでした。ですが、歌詞のうっかり間違えやうっかり替え歌を経験するうちに、だんだん慣れてきたのでしょうか、楽しくなってきたのでしょうか。いまや自ら替え歌を作り、歌い、笑っています。

失敗例は、ここに書いてしまうといつか娘に怒られそうなので、詳細は控えさせていただきますが、多くの子どもが自然にできるようになる事でも、娘には難しい事がありますし、習得が遅れる場合もあります。ですから今も、色々な事に試行錯誤の毎日です。それから、娘が困っていた事はこれだったのか、こんなに辛かったのか、と後になつて気づく事も多くあります。

最後になりますが、我が家で一番大切にしている事は、娘の自己肯定感を高める事です。娘に障害の疑いが出てからは、より積極的に行つてきました。「ママは娘ちゃんが大好き。」「娘ちゃんは今日もかわいいね。」「娘ちゃんはマ

マの宝物。」一日に幾度も、このように話します。もちろん本心ですが、あえて言葉で頻回に伝えるようにしています。

生きにくい性質を持って生まれてきたけれど、娘には幸せになつてほしい。そのためには自分で自分を好きになつてほしい。

おかげさまで、今のところ娘は、自分分は賢くて運動神経がよくて可愛い子だと思つています。……よしよし。いつか客観視ができるようになった時に、事実と認識との擦り合わせを行わなくてはならないかもしれません。今は、面白いので、「そうだね」と、そのままにしている母なのでした。

親子の過ごし方と関わり方

緑桜学園那珂市立第三中学校 保護者

川口 し の ぶ

私たち夫婦は共働きです。子どもたちは一歳になる頃から保育園に通っています。そのため子どもと関わる時間が少ないのが現状です。また、祖父母

と同居ではないため、子どもたちもいわゆる鍵っ子です。そんな私たち家族だからこそ少ない時間を一緒に過ごす工夫をしています。

一つ目は朝の見送りです。二人の子どもたちは時間差で登校します。慌しい時間ですが、毎日必ず自転車の準備に寄り添い、通学班の待ち合わせ場所までのわずかな時間を見送りながら『今日は学校でなにがあったっけ?』『忘れ物ない?』『今日の天気は……』など何気ない会話を心がけています。そこで学校の予定など話してくれ、子どもの様子が分かり何か変化があったときは、すぐに対応出来るようにしています。

二つ目は帰宅後の時間です。残業後帰宅してから子どもたちが寝るまでの時間は、数時間しかありません。時間を短縮するため、早く帰宅している子どもたちがご飯を炊いてくれたり、洗濯機を回してくれたりしています。大変なのを分かっているお手伝いをしてくれています。私が帰宅し忙しくしていると『手伝って』とお願いすることもある一方で、忙しくしている姿を見ると【手伝わなくちゃ】という気持ちになるようです。食事の支度は学校

での調理実習のように、子どもに作り方を教えたり、会話を楽しんだりしながら過ごすことが出来ます。ですので、子どもの思っていることや親として伝えなければいけないことなど沢山話をする時間となっています。また、ご飯の時間には今日の話を話したり、一緒にテレビやユーチューブを見たりと同じ話題での会話を楽しんでいます。同じ漫画や雑誌、タブレット教材などをみたりすることで話題が沢山でき、共通の話題で会話は弾み、それをきっかけに色々なことを話してくれるようになります。

三つ目は休日の過ごし方です。子どもが大きくなるにつれて親と一緒に行動したがる子も多いようですが、私の家族はみんな出かけるのが当然のことのようになっていきます。親の用事で付き合ってしまうこともあります。その時には子どもの行きたい所にも行くようにしています。例えば、外での用事があるときはその前に外の公園や芝生で遊んだり、買い物に行く時は、子どもの行きたいゲームセンターや本屋などに寄りたり、子どもたちを優先しています。このことで自分がよければ、自分のためだけでなく、相手

のことも考えられるようにと教えています。そのせいか出かけるときには、『一緒に行く』と言って必ずみんなですぐ出かけることができています。

また前職で販売員をしていたときに、『店員さんに怒られるからやめなさい』と怒る保護者がいました。子どもにとつて店員が怒るからやめるのではなく、なんで止めなければいけないのか、その理由が大事なのではと思うことがありました。『店内を走り回って転んでケガをしたら危ないから走るのを止めてね』『ぶつかって棚のものが落ちてきてケガをしちゃうかもしれないよ』など理由づけをして注意をするように自宅でも心がけています。理由が分かれば子どもも納得して止めてくれるようになってきました。

まだまだ子育ての最中で上手いかないことも多く、自分自身が成長しなければと思うことが多々あり反省することばかりの毎日です。子どもとのかかわりの中でこれからも様々なことが起こってくると思いますが、その都度子どもと沢山かかわり合い、話し合つて親として一緒に成長していきたいと思ひます。

親子関係が楽しくなる私の生き方

茨城県立那珂高等学校 保護者

鈴木 明子

「親が変われば、子どもも変わる」というテーマで自分の子育てのことを考えていたら、両親のことを思った。

私は、両親と兄弟の五大家族で育った。兄と妹三人兄弟の二番目、中間子。世でいわれることも多いが、親からの愛情を受けていないのではないかとひねくれた時期も経験した。十代の後半に、母にその思いをぶつけたことがあった。すると、いつも明るい笑顔の母が、涙を流し、私を大切に思っていること、愛しているということをもつて伝えてくれた。私はこの時、自分の気持ちや伝えたいことをとてもよかつたと思っている。どんな言葉が返ってきてもずっと思っていたことを口にして相手に伝えたことは、今までずっとややもやしていたことが嘘のようにすっきりする。私は親から愛されていただろうかという疑問は、どこかで区切りをつけなければ、きっと、いつまでたつても、自分の心の中で渦のように残ることになる。

その思いに支配され人生を送っていくことはせつかくの人生もつたいなさすぎるので、思いを伝えることは、とてもお勧めだ。

そして、私は、厳しくしつけられたという記憶がほとんどない。まして、父に怒られたことは一度もないように思う（覚えてないだけかもしれないが）。女の子というのは、初めて接する男性はほとんどが父親であり、その父親からは厳しくされると、自分は愛される存在ではないのではないかと感じてしまう。これは私の持論だが、世のお父さん方は、娘に厳しくしつけることを一生懸命になるのではなく、ただひたすらかわいかわいとして優しく接した方が、娘は自分は愛されていい存在なのだと感じる事ができ、幸せになるだろうと思っている。

また、母は、私にテレビやラジオで得た情報を今でもウキウキしながら教えてくれる。しかし、いまだに私はそれをほとんど実践したことはない（笑）。迷惑と思っているわけでは全くないが、母がいいと思うことと私がそうしたいと思うことが違うだけだ。自分のことを思ってくれているのだから、言われたことは聞かなければいけないと思ってし

まうと、そのうち息苦しく感じ、嫌悪感をもってしまう人もいるだろう。そのため私は、内容は右から左にさらっと流し、愛情だけはたっぷり受け取っている。私や子どもたちを思い、愛してくれているという思いを、素直にとてもありがたく感じながら、母の話を聞いている。また、母は母で、話したら満足しているようなので、私はいい関係だと思っている。

そして、私の子育ての話になるが、私には、高校三年生と小学六年生の二人の子ともがいる。思えばいい親と言われるようなしつけというものをしたことはないが、ただ、どんな自分でも愛されていい存在なのだという思いを伝えることを心がけている。自分が愛されていい存在だという事は、同じように、誰もがそういう存在なのだと感じる事ができる。言葉でいうのは簡単だが、時には何気ない言葉で否定してしまうこともある。しかし、私は、それでもいいと思っていて、自分が間違つたと気づいたら、素直に謝ればいい。今では子どもたちは、またママがやらかしているのと冷静に見ているらしい。

私は私の人生を、子どもは子どもの人生を歩んでいくこと、そのすみわけ

ができていればそれでいい。子どもに関心がないという事ではなく、子どもは、大人よりもよっぽど優秀で、挑戦していく力も吸収するスピードも私がかとう事なんてできない。大人は経験があるという事だけ。しかし、これから生きていく子どもたちの世界は私が今まで経験した世界とは変わっている。だから、何かを教えるあげようなんてことは、子どもにとっては邪魔になるだけで、親のいう事を聞かせてしまうということは、子どもの可能性を摘んでしまうことだと私は思っている。

私は私で挑戦を繰り返して、失敗してもただただ楽しく進んでいく。子どもは子どもで、自分の人生は自分のものと実感しながら進んでいく。そして、つまずいたとき助けてほしいと思つたときは、いつでも頼ればいい。頑張っても頑張らなくても、何かを達成してもしなくても、自分の価値は変わらない。愛されているという事は変わらない。せつかくこの世界で出会うことができた子どもたちと、私は楽しく笑つて過ごしていきたい。

それが私の幸せだ。

「家庭の日」 図画作品
コンクール
金賞受賞作品



家族でバーベキュー
青逢学園 那珂市立横堀小学校 1 年
堀口 蒼太



みんなでかきた
ばら野学園 那珂市立菅谷西小学校 2 年
高橋 歩未



みんなにこにこたんじょう日
ばら野学園 那珂市立五台小学校 3 年
掛川 依千羽



紙飛行機 だれが速くにとばせるかな？
ばら野学園 那珂市立五台小学校 4 年
小林 未来



わが家のオンライン帰省
わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校 5 年
熊田 こね



火起しの大変さを知ったバーベキュー
ばら野学園 那珂市立五台小学校 6 年
小林 美海



夏のひととき
わかすぎ学園 那珂市立第四中学校 7 年
関根 葵

「家庭の日」 図画・作文入賞者

図 画 の 部						作 文 の 部			
学年	銀 賞		銅 賞		学年	銀 賞		銅 賞	
小 1	しどみ 部	ひより 日和	ひらの 平野	あおい 碧	小 5	たちかわ 立川	ま お 麻央	かみなが 神長	さり
小 2	おおく 大久保	りおん 璃音	の がみ 野上	ま な か 真奈楓	小 6				
小 3	きむら 木村	ほ の か 穂乃花	よこやま 横山	こころ 心羽	中学生	いしかわ 石川	ま な か 愛華		
小 4	ひらの 平野	かなめ 要	つちはし 土橋	ゆきな 雪菜					

学年	銀 賞		銅 賞	
小低学年	おにざわ 鬼澤	あい か 愛佳	とみやま 富山	る り 瑠里
小中学年	とみやま 富山	りり あ 莉里有	いしかわ 石川	こはね 恋羽
小高学年	え 江幡	あいな 藍奈	さわはた 澤畠	ゆう と 優斗
中学生	ささしま 笹嶋	ゆい と 唯翔	なりまつ 成松	もも 杏寧

令和 2 年度 那珂市「善行青少年表彰」受賞者一覧			
氏 名	学校・学年	善行の概要	備考
菅谷小学校児童会	わかすぎ学園那珂市立菅谷小学校代表委員会	新型コロナウイルス感染症の流行により、感染者への偏見や差別を予想し、児童会の6年生を中心に各学級を回り、感染者・医療従事者に対する偏見や差別をしないことを約束する「グリーンリボン運動」を展開すると共に、毎週1回校内放送で、運動の趣旨を呼びかけている。	公共生活への貢献
おぬき 小貫 あいと 琉翔 ゆう 雄伍 おぬき 小貫	緑桜学園那珂市立第三中学校第9学年	戸多地区まちづくり委員会、自治会、青少年相談員、小中保護者で通学路を含めた県道の草刈り、枝払い等の環境美化作業を行った。その時に、那珂三中の9年生2人が、自主的に参加し、積極的に作業を行った。	社会福祉
はねいし 羽石 りく 陸来	わかすぎ学園那珂市立第四中学校第9学年	「菅谷で一人暮らしをする80代の母親が、ゴミ集積所にゴミを持って行こうと歩いていると、男子中学生が集積所までゴミを持って行ってくれた。本当にありがたく、温かい思いに包まれた。」というメールが都内在住の男性から学校に届き、各クラスで紹介したところ、当該生徒であることが分かった。	個人生活の徳行
おおふ 大部 ま 愛奈	白鳥学園那珂市立瓜連中学校第8学年	学校への登下校を含め、地域の方々への礼儀正しい挨拶を実践している。地域の方々からも、その素晴らしい挨拶について称賛する連絡が学校に入っている	個人生活の徳行
くりた ひな 日菜 こんの はな 紺野 遥菜 とよだ あかり 豊田 緋李 はぎの や 秋野 昌	白鳥学園那珂市立瓜連中学校第8学年	下校途中に道路に散乱していたペットボトル等を拾って、清掃活動を行った。	社会福祉

大切にしたい言葉

私が座右の銘にしたい言葉は、「失敗は成功のもと」です。これは、国語辞典を読んでいた時にみつけたことわざです。

私が、この言葉を選んだのは、言葉の意味がいいなと思ったからです。意味は、失敗してもあきらめないで、よくそのわけを考え、注意深くやれば、次にはりつぱにできるといふ意味のことわざです。私は、いつも何かをする前から「どうせ自分にはできない。」と思ってしまいます。でも、この言葉を目にして、ネガティブな思考ばかりしているのではなく、自分の考え方を少しでもいいからポジティブにしていきたいと思いました。

私も、四月からの中学校生活に向けて、失敗の中から失敗してしまつた理由を見つけ出し、成功につなげたいと思います。中学校では、小学校以上に大変なことが多いと思いますが、「失敗は成功のもと。」

これを、これからの座右の銘にしたいです。



学校をよりよく

六年 袴塚 爽羽

私は、六年生全員でくつをそろえよう大作戦を行いました。この取り組みを行おうと思ったのは、くつのかかたが出てしまっているのを見た時、学校の昇降口が乱れているように感じたからです。そこで、一人一人がくつ箱をもつときれいにし、気持ちの良い学校生活を送ることができるようするために、この作戦を考え、実行しました。

実施の方法は、事前アナウンス、呼びかけ、くつ箱のチェック、放送での結果発表の四つに分けて取り組みました。私がその中でも効果があつたと感じるのは、呼びかけです。呼びかけはポスターを作り、各学年のボランティアで参加してくれた人たちと、昇降口で行いました。予想していたよりもたくさんの方のボランティアが来てくれたので嬉しかったです。チェックの日くつ箱を見ると、呼びかけの前よりもみんなくつがきれいになっていたので、すごいなと思いました。また、結果発表では、一位をとることができた学年がとても喜んでいたのでよかったです。

これからもくつがきれいにとそろっていると思います。



まちづくり委員会



五台地区まちづくり委員会は、ふれあいセンターごだいの一角に事務局があります。

この五台地区は、那珂市の教育地区と言っても過言ではありません。短期大学が一つ、高等学校が二つ、小学校が一つ、幼稚園が一つ、茨城学園があるところです。小学校は五台地区のほぼ中央に位置しており、各方面から子どもたちが登校してきます。各地域の交差点や危険箇所には、保護者はもちろん、高齢者の方々が登下校時に子どもたちを見守っています。高齢者の方々は、各地区の安全パトロール隊や地区防犯協会に参加し、毎日のように子どもたちを見守り「おはよう。」「いってらっしゃい。」などの言葉をかけています。子どもたちも「おはようございます。」「いってきます。」と元気に挨拶をして登校しています。また、青少年相談員や防犯協会五台支部の方々も定期的に巡回パトロールを行ってくれています。私たちまちづくり委員会でも、青少年相談員や地区防犯協会と協力し合って問題点を話し合い、問題解決を図っているところです。以上のように子どもたちの安心・安全な登下校のために地域の方々、特に時間的余裕のある高齢者の方々の活動が大きいと思います。

高齢化社会と言われますが、元氣な方々が地域の潤滑剤となり、時間的余裕

のない若い人たちのために、地域活性化の旗振り役になれば、元氣で明るい地域社会をつくる一つの要因になるはずです。地域に元氣な高齢者の方々がいるから子どもたちが、元氣に明るく学校生活を送ることができるのだと思います。

現在はコロナの影響で安全パトロールはできません。集会やスポーツ大会が中止ということになり、高齢者の方々の元氣の源が失われるような気がします。一日も早くコロナが収束し高齢者の方々が元氣に活動できることが、子どもたちにとっても、地域にとっても、明るい話題になることと思います。

皆で、コロナ収束と明るい地域づくりに頑張ります。



編集後記

コロナ蔓延で年が明け、依然として先が見えない。外出自粛、密避け、こたつに入ってテレビ鑑賞も悪くはないが気分は晴れない。清々しい未来、コロナから解放される日は、千支の牛のように歩みは遅くとも日々近づいていると信じていたい。今一度、マスクや手洗いなどの予防策の初心に戻り、危機感をもって行動し、普通の生活に戻る日が来ることを願うばかりです。

広報部会長 袴塚 耕二